

STだより①

発音が気になる保護者の方へ
～まず知っておいてほしい事～

発音が分かりにくいため、相手にうまく伝わらずに困っていませんか？

言語聴覚士は、発音の相談に応じます。



ホームページで【発音】に関して
2回に分けてお伝えしたいと思います

●発音にとって大切なこと①●

上手に発音をするためには

- 口・舌・喉などの構造上の問題がなく、上手に動くこと
- 耳の聴こえに問題がないこと
- 身体や手先を上手に使えること
- ことばの発達が順調であること

が大切になります。

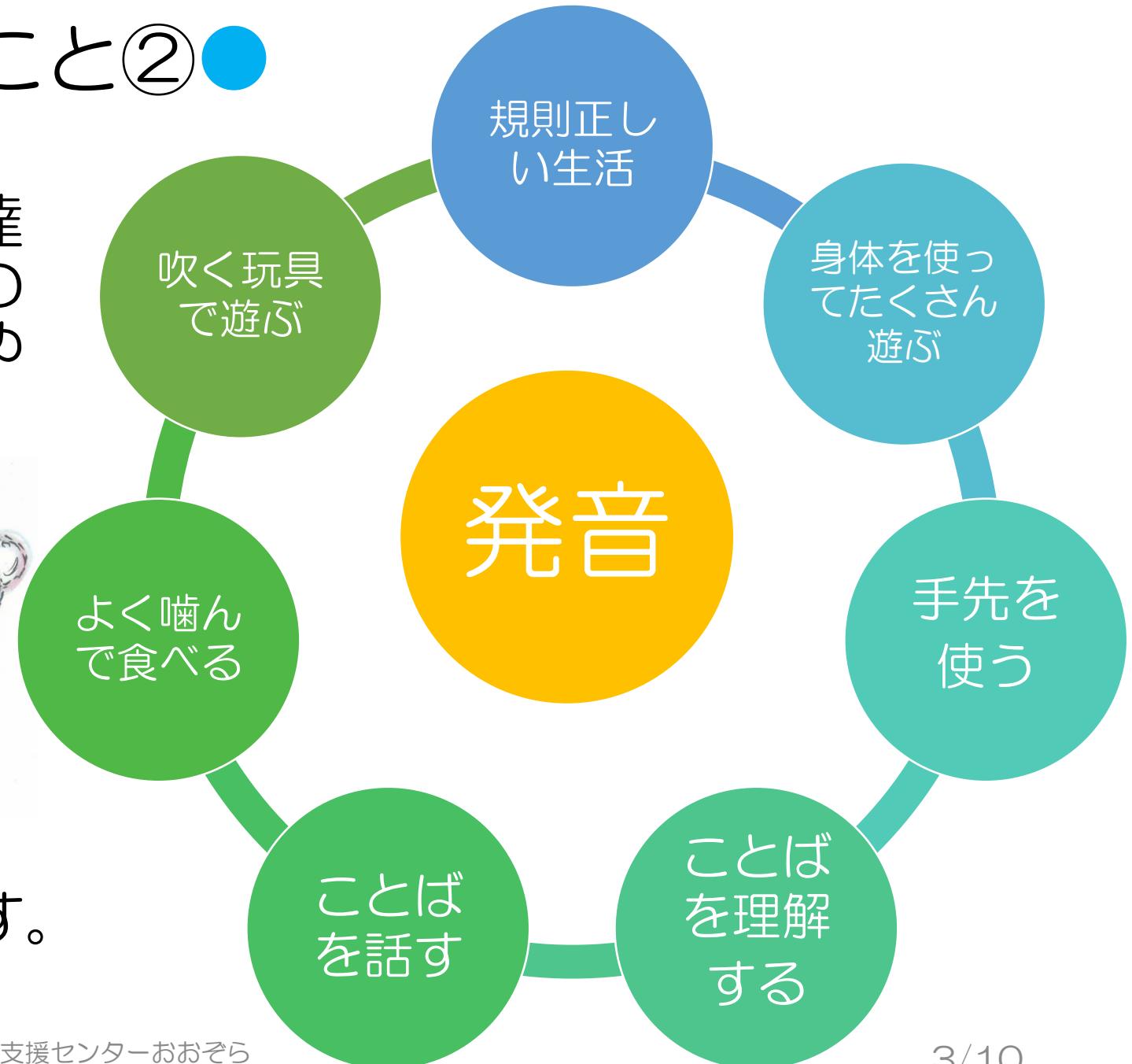


●発音にとって大切なこと②●

規則正しい生活や身体の発達に合わせた十分な運動などの積み重ねが、ことばの発達や発音につながります。



発音は一番最後の仕上げです。



当てはまることがありますか？

Q1

- 耳の聞こえが気になる、呼んでも振り返らない、テレビの音が大きい
- 中耳炎を繰り返している
- 赤ちゃんの頃、鼻からミルクが出ていた
- ふがふがした喋り方になっている
- 舌が短く、べーっと出す時にハート状になる
- ことばの数が少ない、話し始めるのがゆっくりだった

→当てはまる場合は、かかりつけの小児科や
耳鼻科・小児歯科、地域の保健師さんへ相談してみて
下さい



●正しく発音できる年齢の目安●

身体的な発達（急に歩き出すのではなく、首が据わる、お座りする、歩く）と同じように、発音できる音も少しづつ増えています。

- 正しく発音ができる時期（文献1より抜粋）

3歳	4歳	5歳
ま行・ば行 わ行・や行	か行・な行 だでど・たちてと	さ行・ざ行・つ

※個人差があります

母音なら3歳、力行なら4歳、サ行なら5歳くらいが発音の練習時期の目安です。

例) 3歳で力行が正しく言えなくても、まだ年齢的には様子をみてもよいかもしれません。

●誤り方●

- ・ カ行が言えない

「カエル」→「タエル」

- ・ サ行が言えない

「サカナ」→「タカナ」

- ・ ふがふがしゃべる（鼻から音が出ている）

「キリン」→「ンッン」

- ・ 全てア行でしゃべる

「カエル」→「アエウ」



●相談開始の目安●

発音の練習には適切な時期があります。

- ・しりとりができる
- ・20分程度座り続けられる
- ・平仮名が読める
- ・お友達にからかわれるなど本人が困っている



●ご家庭でできること●

- 💡よく噛んで食べることや口の体操、しりとりが、発音の練習になります。
- 💡子どもが言ったことばに間違いがあっても、言い直しや訂正をするのではなくさりげなく正しい言い方で返しましょう。
- 💡なによりも、おしゃべりが楽しい、伝えたいなという気持ちを育みましょう。



☆詳しくは次回触れます

●まとめ●

発音が上手になるためには

- ・おしゃべり（発音）以外の様子も見てみて下さい
(食べ方, 体の動かし方, ことばを伝える力、など)
- ・発音の練習開始の目安の時期まで、お家でできることをしながら様子を見る

心配な時は、園の先生や地域の保健師さん
健診の時などに相談してみてください。



参考・引用文献

- 1) 「言語聴覚士テキスト第3版」 医歯薬出版
- 2) 中川信子「ことばが伸びるじょうずな子育て」 日本家族計画協会
- 3) 寺原奈々「ことばをひきだす親子あそび」 小学館
- 4) 横浜市総合リハビリテーションセンターHP
- 5) 佐賀県小児科医会・佐賀整肢学園こども発達医療センターHP
- 6) Instagramコトリドリル

※イラストの無断転載はお控え下さい